

三重県菅島の盆行事⁽¹⁾

—共時的分析—

はじめに

一 「完結した」共同体菅島

二 盆行事のあらまし

三 盆行事の分析

おわりに

論文要旨

本稿は毎年七月三十一日から八月三十一日にわたって菅島(三重県鳥羽市)で繰り広げられる一連の盆行事を共時的(synchronic)に分析することによって、統合された一つの全体としての盆行事の構造を明らかにし、そこから、祖靈や、死や、共同体についての意味を、菅島という社会・文化のコンテクストの中で探ろうとするものである。

菅島の盆行事は少なくとも四の独立した儀礼から成り立ち、これらは、大きく「準備」「迎え」「もてなし」「送り」の四段階に分けられる。とはいっても、四つの段階が、前後の段階と明確に区切られるわけではない。一つ一つの盆行事がそれぞれどのような特徴を持ち、どのような意味を持つのかを探るために、(一)盆行事を(1)儀礼の対象、(2)儀礼の場所、(3)儀礼参加者の社会的属性、(4)参加者の服装、(5)儀礼的行為、の五つの観点から整理した。

田中真砂子

菅島の盆行事は、また、寺を中心に地下が組織する行事、寺の関与なしに村中一斉に行われる行事、村中同時に行われるものとの家ごとにばらばらに行われる行事に分けることもできる。一九八七八九年に観察した盆行事の分析を通して分かったことは以下の諸点である。

一 祖靈は、新亡、普通の先祖、戦没者、代々の住職、無縁に大別される。

このうち戦没者と新亡は、個別的に特別の扱いを受ける。

二 同じ祖靈でも、儀礼がどこで行われるか(埋墓、詣墓、寺本堂、施餓鬼棚、仏壇、浜)によつて、祖靈の性格は微妙に、または明確に異なることが、儀礼行為などから読み取れる。

三 参加者は、年齢、性別にもとづく七つのカテゴリーの枠の中で、それぞれの儀礼に特定のかかわり方をする。

四 一定の儀礼的行為はクラスターになって特定の「場」で繰り返される傾向がある。